

# 熊本大学eラーニング連続セミナー

熊本大学, [総合情報基盤センター](#), [大学教育機能開発総合研究センター](#)

熊本大学は、特色 GP の平成 15,16 年度 2 年連続採択等、積極的にeラーニングを実践して来ており、平成 18 年度には、eラーニングの専門家をeラーニングで養成する、大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻を開設した。これらの取組みの一環として、平成 17 年度には、国内外の著名なeラーニングに関する専門家を招いて、熊本大学eラーニング連続セミナーとして計 7 回を開催した。

## 全体を通して

### 概要

熊本大学は、特色 GP の平成 15,16 年度 2 年連続採択等、積極的にeラーニングを実践して来た。その過程で、eラーニングに適した教授法、eラーニングを支える基盤システムとそれらの連携、運営体制等、eラーニングを発展させていく上での様々な障害や問題点を体験してきた。これらの解決策を模索し、世界的な連携体制を組むことを視野にいれ、平成 18 年度、熊本大学として「熊本大学eラーニング連続セミナー」の開催を決定し、国内外の著名なeラーニングに関する専門家を招いて全 7 回開催した。

### 参加者

平成 17 年度に開催した全 7 回を通しての、のべ参加者数は 665 名で、1 回あたり平均 95 名の参加者があったということになる。殆ど毎回のよう、学内関係者だけでなく、熊本県内外、関東地方等全国的に参加者があり、大変盛況であった。

### 開催通知

大学の Web ページへの掲載だけでなく、総合情報基盤センター、大学教育機能開発総合研究センターを中心として収集した、電子メールリストを用い、電子メールによる自動通知と Web による参加登録によって参加者の事前把握をした。また、各種学会、研究会等からお知らせの転送をしていただいた。ここに、深く感謝する。

## 講演概要

### ■ 第 1 回

#### 「eラーニング連続セミナー キックオフ講演会」

-- 日本のeラーニングの現在と未来 --

日時 2005 年 4 月 25 日(月) 17:00 - 19:00

17:00 学長挨拶

熊本大学学長 崎元達郎

17:15 基調講演

「効果的なeラーニング実施の視点と今後の展開」

メディア教育開発センター理事長 清水康敬 氏

大学等が実施するeラーニングの質を保証するための視点について私見を交えて説明します。また、eラーニングに関する著作権法と今後の法改定への動き、eラーニング・コンテンツの共有化と今後の展開について述べます。

19:00 終了

■ 第2回

「eラーニングシステムの新展開」

日時 2005年5月19日(木) 17:00 - 19:00

会場 くすの木会館レセプションルーム

17:00 招待講演

「The Sakai Project: Creating a Community Source, Internet-based, Collaboration and Learning Environment」

(Sakai プロジェクト: コミュニティソースで開発するインターネット利用 協調・学習環境の創設)

ミシガン大学教授 ジョセフ・ハーディン 氏 (Sakai プロジェクト代表)

Professor Joseph Hardin, Sakai Project Board Chairman, University of Michigan

ミシガン大学、インディアナ大学、マサチューセッツ工科大学、スタンフォード大学、uPortal コンソーシアム、オープン・ナレッジ・イニシアチブ(OKI)は、これまで各々で独自に開発してきた、かなりの数のeラーニング・ツールの相互利用を可能にし、さらにオープンソース・ツールとしての統合を目指しています。

(この講演は英語で行われます)

The University of Michigan, Indiana University, MIT, Stanford, the uPortal Consortium, and the Open Knowledge Initiative (OKI) are joining forces to integrate and synchronize their considerable educational software into a pre-integrated collection of open source tools.

18:00 招待講演

「大学における教育・研究活動のための次世代情報基盤の構築に向けて」

名古屋大学情報連携基盤センター・情報戦略

FS室 助教授 梶田将司 氏 (日本語版

WebCTの開発者)

講演概要:

eラーニングに代表される大学におけるIT活用の促進は、費用対効果を重んじながら各大学が独自のIT戦略に基づいて整備・運用する新しい段階に入りつつある。本講演では、名古屋大学情報連携基盤センターにおける名古屋大学ポータル構築・運用や、情報戦略

Feasibility Study 室の活動、ユビキタスコンピューティング環境下での次世代コース管理システムの開発を目指すULANProject ([www.ulan.jp](http://www.ulan.jp), 文部科学省研究委託事業) など、名古屋大学での研究・実践をベースとした話題をまじえながら、大学における教育・研究を支える次世代の情報基盤のあり方・方向性について語る。



19:00 終了

## ■ 第3回

### 「eラーニングコンテンツの新展開」

日時 2005年6月6日(月) 17:00 - 19:00

会場 熊本大学工学部百周年記念館

#### 17:00 招待講演

「オープンコースウェアとオープンソースの動向 (OpenCourseWare and the Open Source Movement)」

マサチューセッツ工科大学教授 宮川 繁 氏 (MIT のオープンコースウェア推進者)

Professor Shigeru Miyagawa, Massachusetts Institute of Technology (MIT)

MIT オープンコースウェア(OCW)は MIT のもつ教育・知的資源を世界中の 学習者(学生、教育者、研究者) に広く公開・還元することを目的とした プロジェクトです。OCW コンテンツは、実際に MIT で行われた講義を元 に作成されており、学習者は質の高い教材を無償で利用することができます。このプロジェクトは世界に大きな衝撃を与え、非常に高い評価を受けています。本公演では MIT OCW とオープンソースの動向についてご講演いただく事になっており、同時に、MIT における eラーニングの現状など についてもお話いただく予定です。

宮川教授は MIT OCW の実施に際して中心的な役割を担ってこられた方 であり、ご自身も積極的に eラーニングを活用した講義を展開されています。

19:00 終了

## ■ 第4回

### 「効果的なeラーニング実施のための道標: インストラクショナル・デザイン」

日時 2005年7月15日(金) 17:00 - 19:00

会場 熊本大学工学部百周年記念館

#### 17:00 招待講演

「効果的なeラーニング実施のための道標: インストラクショナル・デザイン」

岩手県立大学教授 鈴木克明 氏

株式会社東京海上日動 HRA 研究員 北村士朗 氏

岩手県立大学大学院博士後期課程 根本淳子 氏

インストラクショナルデザイン(ID)は、eラーニングの品質向上のための方法論として日本では近年になって注目を集めるようになったが、教育一般の効果・効率・魅力を高めるための研究領域として30年余りの伝統に支えられている。eラーニングを導入する場合にもしない場合にも、何を点検すれば「よりよい講義」への糸口が見つかるかについて、

IDの視点から手ほどきする。IDがどれほどのものかは、この講義を受ければ分かります。

19:00 終了

## ■ 第5回

### 「eラーニングの展開と教育改革」

日時 2005年8月30日(火) 17:00 - 19:00

会場 熊本大学工学部百周年記念館

#### 17:00 招待講演

##### 「eラーニングの展開と教育改革」

坂元 昂氏

(社団法人日本教育工学振興会会長 / 特定非営利活動法人実務能力認定機構理事長)

最近急激に進展しつつある欧米のeラーニングの状況を展望し、日本のe-Japan戦略としての対応を述べ、ネットワークによる人類の知の相互活用によって、対面学習を中核とした伝統的な教育観が、eラーニングを中核とする教育観に逆転することを指摘し、eラーニング展開上の諸課題、すなわち質保証、個有知の相互活用、知的所有権、ブレンド学習などについて触れ、将来展望として、AENの状況を紹介し、ヨーロッパとアジア、オセアニア、アメリカなどとのネットワーク形成を通じた世界展開を期待する。

19:00 終了

## ■ 第6回

### 「高等教育におけるeラーニング実践：信州大学および全国の先進事例から」

日時 2005年9月29日(木) 17:00 - 19:00

会場 くすの木会館レセプションルーム

#### 17:00 招待講演

##### 「信州大学における e-Learning 活用教育」

山本 洋雄氏 [信州大学高等教育システムセンター教授(e-Learning 研究開発部門長)]

信州大学では平成15年度から全学 e-Learning 活用教育の準備をはじめ、平成16年度から運用を開始した。現在は全教員997名、全学生14,000名のアカウントを登録して誰でも利用できる環境

になった。

e-Learning 活用教育を受講している今年度(平成 17 年度)前期の学生にアンケートを行った結果 1,527 名から回答があり、LMS の主な機能に関して有効との肯定的意見は 60%から 76%であった。「今後 e-Learning を受講したいか」では 59%が肯定的であった。  
e-Learning 活用教育の推進経過と今後の動向などを踏まえて報告する。

## 「e-Learning もいろいろ」

### —高等教育における様々な情報通信技術活用方法と今後の展望—

**矢部 正之氏** [信州大学医学部教授(高等教育システムセンター共通教育企画部門長) / コンピュータ利用教育協議会(CIEC)副会長]

e-Learning に代表される教育における情報通信技術の活用は、K-12(初等・中等教育)から高等教育、さらに生涯教育にいたるまで様々な場面で行われ、様々な利用方法が提案、実施されています。その中で、高等教育におけるそれらの利活用は、教育全般で共通なものがあると同時に、高等教育特有の課題もあり、その場面にふさわしい目標と手法の設定が必要です。

高等教育における、情報通信技術の活用の現状と、各大学が描いている将来像を概観し、どのような利用方法が高等教育の改善に資するもので、そのためには、どのような取り組みが求められているのか、具体的な事例も交えて報告します。

19:00 終了

## ■ 第 7 回

### 「Learning GRID と UEC's e-Learning」

**日時** 2005 年 3 月 3 日(金) 17:00 - 19:00

**会場** くすの木会館レセプションルーム

17:00 招待講演

### 「Learning GRID と UEC's e-Learning」

**岡本 敏雄氏**

[電気通信大学大学院情報システム学研究科教授 / 電気通信大学 e-Learning 推進センター長]

ヨーロッパにおける Learning GRID プロジェクトの紹介とそのコンセプトを生かした我々の e-Learning GRID プロジェクト(科研費基盤研究 A)の紹介をする。さらに電気通信大学における専門性重視の相互作用 e-Learning 実践について述べる。また、e-Learning における教育サービスの形態を Learning GRID のコンセプトに合わせて整理し、今後の e-Learning の展開を述べる。

19:00 終了

